

えんどう品種

さやたろう

長野県野菜花き試験場育成

来歴



えんどう栽培において土壌伝染性の病害に起因する連作障害が作柄を不安定にしている。これらの殆どがえんどう根腐病であることが判明、根腐病抵抗性を有し、植物体特性、さや特性、収量性に優れた絹莢品種育成を目標に昭和60年に育種を開始した。平成7年に根腐病抵抗性で実用形質に優れた系統が得られたので「桔梗4号」の系統名を付し、平成8年～10年に系統適応性検定試験を実施した。その結果、有望と評価され平成11年8月農林登録えんどう農林9号「**さやたろう**」と命名、平成14年9月に品種登録された。

特性

- (1) えんどう根腐病に対して強い圃場抵抗性を示します。
- (2) 「電光三十日絹莢」の白花に対し赤花で、草姿は高性です。
- (3) 分枝は低節位から1次分枝が4～5本発生し、高節位からの分枝がほとんど発生しない下位分枝型で、草丈、節間長、茎径は「電光三十日絹莢」と同等です。
- (4) 初花房節位は7～8節で、開花までの日数は春まき露地直播栽培で45日前後の早生種です。
- (5) 若さやの大きさ（1さや重、さや長、さや幅）及びさやの形状、硬さは「電光三十日絹莢」と同等で、板状で曲がり少なく、軟らかく食味性に優れます。また、さやの緑色度は「電光三十日絹莢」と同等かやや淡く、絹莢えんどうとしての利用に適しています。
- (6) 春～初夏まき栽培に適し、移植栽培及び直播栽培ともに「電光三十日絹莢」と同等の高い収量性を示します。

栽培上の留意点

- (1) 「さやたろう」の有するえんどう根腐病抵抗性は免疫性でなく、菌密度が高い圃場では発病する恐れがあるので連作を避け、深耕、排水対策など菌密度を高めない耕種的防除も併用してください。
- (2) 栽植密度は800株/a程度とし、これ以上の過度な密植は避けてください。
- (3) 低温期はさやにアントシアニン色素が発現するので、冬どり栽培での使用は避けてください。

※ 種子は当センター会員の全国農業協同組合連合会長野県本部及び各JA並びに長野県種苗生産販売協同組合各種苗店を通じ販売しております。

一般社団法人 長野県原種センター

長野市松代町大室2417-3

TEL 026-278-9229 FAX 026-278-9369